

編集後記：「ゆう活」なのである。

今年7、8月は安倍首相肝煎りと言われる国家公務員の「ゆう活」が試行されました。「ゆう活」とは、明るい時間が長い夏の間は、始業を1～2時間早め、その分早く帰って夕方を楽しく過ごそうというもの。なんでも、「ゆう活」の“ゆう”とは、「(ゆう) やけ」「(悠)々」「(友)人」「(遊)ぶ」などの意味が込められているとか。

初めて「ゆう活」の話聞いた時は、「誰がこんなことをやるんだ？かえって仕事時間が増えるだけだよ。」と思ったのですが、フタを開けてみれば、わが課では、かなりの割合の職員が「ゆう活」に参加し、普段夜9時10時まで仕事している人も、まだ日の高い午後4時過ぎに「明るいうちから飲むビールはうまいよね。」とニコニコしながら帰っていく。気象庁職員とは、やれと言われればきちんとやる、とても「真面目」な生き物なわけです。

さて、無類のゆうやけ好きである私にとっても、実はこの「ゆう活」はありがたい。私の所属課の執務室は、西側の窓が皇居に面しており、東京都心の割には

空がひらけていて、ゆうやけがよく見えます。しかし、常にブラインドが下ろされているため、空はわずかな隙間からしか見えません。でも、その細長い隙間から、美しいゆうやけがちらりと見えると、一人そわそわ落ち着かなくなります。

私にとって、ゆうやけで注目するものは、以下の3つ。

- ・太陽が沈む時のいわゆる夕陽
- ・太陽が沈んだ後、上層雲などが夕陽に照らされてゆうやけ色に染まる、ゆうやけ雲
- ・最後に、茜色から群青色へ、グラデーションのゆうやけ空

ゆうやけが美しい日の夕方は、空の変化が気になって全然仕事が手に付きません。こんな私にとって、ゆうやけ時間前に堂々と退庁でき、ゆうやけを悠々と眺められる、「ゆう活」は大歓迎というわけです。

さて、今日は朝7時半から勤務している「ゆう活」の日ですが、残念ながら台風第11号の影響でゆうやけが見えないので、代わりにこの編集後記を悠々と書いています(笑)。(金田昌樹)